

2014年 参加者 アンケート(司祭・修道者・信徒)

①今回の「集い」を通して得るものがありましたか。

- ・得るものは特になかった（残念ながら）
- ・教会がグループ化して、かたまってしまうのはよくない。
- ・お互いがもっている悩み、困難を分かち合えて良かった。
- ・これからも希望をもって働きたい。
- ・召命の為に大切なことを確認できた。「祈り」と「暖かく受け入れる共同体」
- ・1昨年と違う方々との話し合いを通して、諸々のことを聞くことが出来、参考になった。
- ・どの司祭も、修道者も直面する諸問題に真剣に取り組んでいることに感銘をうけた。
- ・未耕地は多く果てしなく広いので、やりがいはある。
- ・各修道会が行っている召命活動を知ることが出来たし、意見交換も出来た。
- ・共に召命について考えることができた。
- ・自分の召命をふり返る機会となった。
- ・多くの指針を頂いた。

②召命の土壌とその構築について思うことは何ですか(強く言いたいこと、言い残したことなど)

- ・「神が日本をどう導きたいのか」の視点で召命を考えるべき。教会、修道会の衰勢の中で召命を考えると、召命活動の道を見失うことになる。
- ・教会共同体づくりが大切。
- ・カトリック学校のあり方を考えるべき。宗教の時間がなくなり、倫理の中に組み入れられている。
- ・自分の信仰に自信をもって福音宣教をするべき。
- ・出会う人と、喜んで関わること。
- ・イエスを知らない人に知らせる。
- ・敷居の低い共同体となること…
- ・司祭の霊的成熟・若者を霊的に支え、同伴し、導ける司祭となる。
- ・キリスト中心であること。祈り、神体験が重要
- ・あり方が問われる（共同体、教会、修道会、家庭、個人などの）
- ・家庭の中で共に祈る時を持つ。
- ・秘跡を大切にする。
- ・親が祈りの模範を示す。
- ・召命を頂き、決意した時の喜びを大切にする。
- ・愛と祈りをもって、訪ねてくる人を暖かく迎える。

③召命の活性化のために、自分たちが、今早急に取り組むべき課題はなんですか。

- ・「救い」という教会の本質に戻るべき。それが結局、お互いの「絆」といった当たり前のことを求めることになる。
- ・み言葉、祈り、共同体づくりに力をいれる。(複数)
- ・教会で「月の静修」などを行い、祈りを日常に取り入れられることが望ましい。
- ・召命活性化のために「カトリック学校」を大いに利用してはどうだろうか。
- ・一人一人の信仰教育を大切にすること。
- ・子供の出産を援助し、信徒の増加を図るべき。
- ・自分たちのセールスポイントを考える。

- ・教会に来る人のニーズを明確にし、教会として応え得るものには応え、応えないものは行政に任せる。
- ・若者の目線で、ものごとを見る力が必要。
- ・祈る人となる。
- ・召命の恵に感謝し、その喜びを輝かせ、積極的に人々に伝えるようにしたい。(多数)
- ・全ての会員の召命意識を深め強めること。しばしば習慣的な流れの中で、形式的に修道生活を送っている。
- ・つねにキリストと一体となり、ぶれない心を保ち、キリストの霊によって、絶えず新鮮なものとなるように努力するべき。

④カトリック召命チームに望むことがありますか

- ・召命の個人性（神がその人のペルソナに語りかけること）の視点を損なわないように。召命の均一化に偏らないようお願いしたい。
- ・教師の姿を見て子供は育つので、カトリック教職員の養成講座を行っている Sigis との連携を考えてはどうですか。
- ・いつも召命の為に働きかけて下さり有り難う。これからも宜しく。
- ・今回の企画は本当によかった。感謝します。
- ・召命担当者の関わり、分かち合いの機会と作って下さり有り難う。
- ・神学生の話を知りたい。
- ・定期的に各小教区を巡回するのはどうですか。
- ・各教区でもこのような会を開催して貰いたい。多くの人に参加して貰いたいです。
- ・各教区、各修道会で行われている召命活動の発表・報告があれば参考になる。

⑤その他(自由にお書き下さい)

- ・今の若い学生は、かなり俗化しています。もったいないです。
- ・講演、分かち合い（分科会）、まとめ等、何かの学会のような集まりではなく、「召命は信仰の実り」を実感できるようなプログラムを実施して欲しい。
- ・休憩がなくて疲れた。
- ・召命チームがやりたいことと参加者の意識にギャップがあるのではないか。
- ・召命の問題は時代を超えて発生する。カトリック教会が続く限り、この集いを開催して欲しい。
- ・この集いに参加出来たことを感謝